

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 6 年 5 月 22 日

会 派

公明党議員団

参 加 者

神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	白老町役場 白老郡白老町大町 1 丁目 1 番 1 号				
開催団体等					
政務活動期間	令和 6 年 5 月 21 日 (火)				1 日間
政務活動項目 (名称等)	こども誰でも通園制度の実施について				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和	池田謙次	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	《目的》 少子化対策、子育て支援が最重要な現在、昨年こども家庭庁のこども未来戦略の中で、こども誰でも通園制度が盛り込まれました。 本市におきましては人口減少対策、少子化対策、子育て支援の拡充は前のめりになって推進しなければならず、その中でもこども誰でも通園制度はこどもを持つ保護者にとっては子育ての安心感につながります。 白老町は北海道で唯一の第一回の選考地域でありますので、事業内容を学ぶのはもちろんのこと、実績や課題などを学び、本市に即した事業内容にするにはどのようにしてできるのかを学ぶことを目的とします。 《こども誰でも通園制度の実施について》 ○白老町の教育保育施設は町立 1 園、私立 4 園があり、今回の国のモデル事業としては私立の海の子保育園にて実施されました。 出生数は近年で一番少ない令和 4 年度で人口 15,565 人に対して 34 人と非常に少ない状態で、危機感を持った町は役場内に少子化対策プロジェクトチームを立ち上げたそうです。 チームの発案で 14 の事業を提案して約半分は本事業として盛り込まれたそうです。 ○モデル事業ですので、事業名称は「未就園児の定期的な預かり保育モデル事業」との事でしたが、実質的にこども誰でも通園制度で、保護者が仕事をしていなくても利用できる、保護者が突然				

	の用事でも利用できる、更には保護者がリフレッシュしたいときなどのちょっとした事由でも気軽に利用することができるとの事でした。 ○こどものためとの利用目的もあり、早いうちから集団生活を経験することで成長につながる事や、本格入園前の練習にとの目的での利用もあったとの事でした。 ○同施設内の空きスペースでカフェを開設し、子どもを預け一息つきながら気軽に育児相談や保護者間交流ができることもあり、そこを目的とした利用者もいたそうです。 ○利用者に利用目的のアンケート調査をした結果、保護者の就労のため、リフレッシュのため、育児負担の軽減、集団活動を経験させたい、入園前に慣れるため、との内容だったそうです。 ○事業の効果は上記にわたって出ていますが、一番の効果の入り口が保育を必要とする事由に該当しない 1～3 歳未満児童の利用ができたことにあります。ここがすべてのスタートになることがわかりました。 ○課題に関しましては、単発利用された数件に関して、こどもが集団生活に慣れることができないまま利用終了になってしまうため、継続的な利用が望ましいと考えられたそうです。 更には、利用料金でモデル事業の方が在園時の預かり保育よりも下回ってしまう事もあることに違和感が生じてしまったそうです。料金設定は様々検討が必要になったようでした。 ○今回のモデル事業ではいみませんでした。仮に要支援児童がいたとしたら、専門職による早期発見ができるのではないかと考えられたそうです。 《所感》 今回の視察におきまして、事業の流れからメリットデメリット、運営側や利用者の生の声をお聞きして大変に勉強になりました。一番の大事なことは、各地域の実態に即した運営運用がものすごく大事になってくるという事です。人口規模によっても違いますし、高齢化率や園の数の割合によっても違います。更には人口密集地域かどうかなど様々な条件の違いでベストな運用方法が変わるという事だと思いました。 しかし、制度の内容は子育て支援や子どもたちにとっては大変に良い制度ですので苦小牧にとっての事業展開はどの様にするのがベストであるのか考えて提案したいと思いました。そのためには令和 8 年度にスタートとされているこの制度の事前準備を今から始めるべきと思いました。		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="443 1688 742 1839">資料名（会派保管）</td><td data-bbox="742 1688 1457 1839"> 「学習資料 1～3」 「保育所の育児支援～「こども誰でも通園制度モデル事業」～」 「議会だより」 </td></tr> </table>	資料名（会派保管）	「学習資料 1～3」 「保育所の育児支援～「こども誰でも通園制度モデル事業」～」 「議会だより」
資料名（会派保管）	「学習資料 1～3」 「保育所の育児支援～「こども誰でも通園制度モデル事業」～」 「議会だより」		

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 6 年 6 月 5 日

会 派 公明党議員団参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	釧路市役所 釧路市黒金町 7 丁目 5 番地 市役所本庁舎 2 階				
開催団体等					
政務活動期間	令和 6 年 6 月 3 日 (月) ~ 4 日 (火)				1 日間
政務活動項目 (名称等)	津波避難タワーについて				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和	池田謙次	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	《目的》 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に伴う津波対策については本市におきましても避難困難地域が以前示されている中、対策につきましても財政的な面や場所的な面、方法論などまだまだ課題がある現状です。 先般、釧路市におきまして津波避難タワーを含みますハード面の整備を行う方針と一部予算が決まったとのことのお話を聞き、人口規模など本市と対策的に近い都市ということもあり、主に施設整備の方向性などを学ばせて頂くことを目的とします。 《津波避難タワーについて》 ○釧路市におかれましては、津波海岸部を中心とした平野部におきまして避難対象人口が約 11 万人いるそうで、地形的にも横長という事もあり避難困難者が多く出る予想です。 阿寒川、音別川、釧路川、新釧路川と洪水災害の想定や土砂災害の想定、雌阿寒岳(阿寒湖温泉地区)の火山噴火想定もすることから本市と類似しているところが多い都市です。 ○特に星が浦地区、大楽毛地区に関しては高さがある建物が少なく、避難困難地域として対策を講じなければならない状況の議論が数年前から展開されておりました。本市の勇払地域や糸井から樽前にかけての地域に似ております。津波避難タワーの議論も同時期からされているとのことで、先行して高台に向けての階段を整備するなど現在までも市独自の対策もされております。				

○東日本大震災時の対応としましては、津波警報の発表を受けて15:14に避難勧告発令されて、避難対象者2,680世帯(4,910人)中、避難者数は最大1,474人し、避難所46か所(津波一時避難場所39、その他7)が開設され避難されたそうです。それだけ要避難者が多いということの裏付けで議論が加速したそうでした。

○その後のソフト面の対策は津波浸水予想図の落とし込み、ハザードマップの発行、WEBハザードマップ作成など本市と同じような内容、時期で対策を講じてきたとのことでした。

○避難対策のひとつとして、2016年3月に大楽毛中学校に外から校舎屋上に避難することができる避難階段をつくられました。高い建物がここ以外に極端に少ない地域で既存の施設の機能を拡充し、改修することで避難困難者を少なくする対策を講じられてきました。しかし、依然施設が足りないためこのたびの対策になったとのことでした。

○今回は新たな避難施設の整備を決定させたとのことでしたが、内容は津波避難複合施設、消防署兼避難場所、津波避難タワー2基を建設とのことでした。

○複合施設は学校増築と上層階を避難施設とする学校と避難施設の複合施設として整備するとのこと。国の学校施設環境改善交付金が補助金として使うことができるのが特徴です。

○消防署兼避難場所は消防施設改修のタイミングに合わせて避難施設を併設させることにより全体の整備費を抑制させることができまして有効です。

○専用施設(津波避難タワー)の平常時の活用方法の考え方ですが、地域の集会所のような使い方ができないとのことでした。どこの施設もそうですが、専用施設にしないと国の補助金対象外になるところが複合施設になりにくいところです。(複合施設の複合部分はその使用目的の補助を使うか、市で全額担わなければなりません)

○今後の取組における課題

【早期避難を高める取組における課題】

- 地域による防災意識の格差
→高齢者、町内会加入者の多い地域の意識が高い
- 周知・啓発の機会の拡大
～Web、SNS、広報誌、防災講座など機会が限られている

【避難場所確保における積雪寒冷地ならではの課題】

- 屋内避難場所の確保
→既存施設の確保では施設が限られてしまう
- 屋外避難場所における有効な防寒対策
→内閣府における実証結果を踏まえての対策検討

が挙げられておりました。

《所感》

津波避難タワーの必要性は本市におきましても議論してきましたが、避難困難地域が多数ある所から対策を講じなければならず、状況は同じでした。

国と北海道の補助金を最大に活用すると、市の負担割合は8.6%となり、これが現状におきましての最大となります。この補助金

	を最大に活用しながら、平常時にも価値的に使用できるような提案をし続けなければならないと思います。 釧路市はタイミングもありますが、上手に複合施設として学校と消防施設との機能を兼ね備えた複合施設を計画されました。 本市も今後の計画として様々な計画がありますが、人命第一な中で価値的に整備していく計画を立て進めていくことが必要であることを更に学ばせて頂きました。今後も積極的に提案させていただきます。	
	資料名（会派保管）	「釧路市の概要（令和５年度）」 「釧路ガイドマップ」 「くしろ観光ガイド」

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--